

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 一般国道4号 ^{しちのへ} 七戸バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局
起終点 自： ^{とわだ} 十和田市大字大沢田字北野 至： ^{かみきた} 上北郡七戸町字荒熊内	延長 5.7km	
事業概要 七戸バイパスは、国道4号の七戸町内における交通混雑や隘路区間の解消を目的とした、5.7kmの4車線道路である。		
H1年度事業化		H1年度都市計画決定
H6年度用地着手		H7年度工事着手
全体事業費		事業進捗率
94億円		69%
計画交通量		供用済延長
9,700台/日		2.9km
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 2.8	総費用 (残事業)/ (事業全体) 36/104億円 (事業費) : 24/92億円 (維持管理費) : 12/12億円
		総便益 (残事業)/ (事業全体) 98/131億円 (走行時間短縮便益) : 73/102億円 (走行経費減少便益) : 16/19億円 (交通事故減少便益) : 9.3/10億円
基準年 平成20年度		
感度分析の結果 【残事業】 残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=3.0(交通量 +10%) B/C=2.5(交通量 -10%) 事業費変動 : B/C=2.6(事業費 +10%) B/C=2.9(事業費 -10%) 事業期間変動 : B/C=2.7(事業期間 +20%) B/C=2.8(事業期間 -20%)		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる） ・個性ある地域の形成（主要な観光地へのアクセス向上が期待される） 他13項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 七戸バイパスは、国道4号の七戸町内の交通混雑の解消、交通安全の確保等に重要な役割を果たすことが期待されており、七戸町長をはじめとする首長で構成される青森地区国道協議会等から早期整備の要望（平成20年7月18日）を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率は69%であり、現在、用地買収及び工事を推進している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成22年度2車線暫定供用を目標に事業を推進しており、事業進捗に関わる問題はない。		
施設の構造や工法の変更等 再生資材の活用、プレキャスト製品の長尺化によるコスト縮減を図る。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。